

# 山田まこと “マニフェスト”



## 山田まことの理念

行政を経営的感覚で見直す！

若者や企業に選んでもらえる  
まちに！

誰もが多様性を受け入れ  
笑顔あふれる静岡を  
つくります！



## 山田まことの注力する5つの分野

やさしい  
静岡

強い  
静岡

①防災・危機管理

②地域振興

③産業・経済

④福祉・医療

⑤教育・人材育成

# 政策の5本の柱 ①

## 👉 5本の柱

### ① 【防災・ 危機管理】

課題：リーダーの意識  
危機管理体制  
対応力

#### ① 危機管理体制の再構築

様々な災害を想定した危機管理体制の再構築をする

#### ② 津波対策の推進

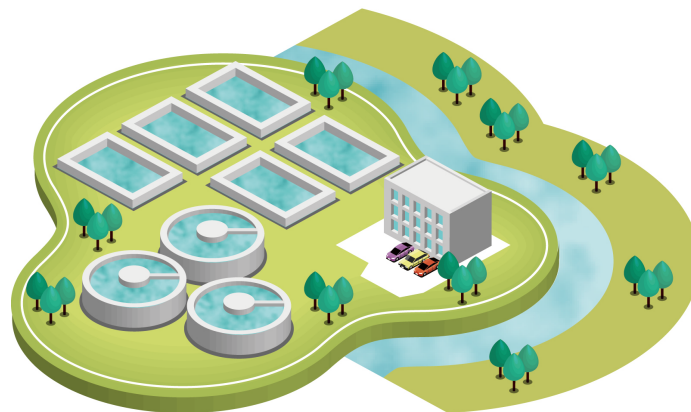
レベル1に対応した防潮堤等の整備

その上でレベル2への対応の推進

#### ③ 上水道の水源確保の複数化

静清工業用水の活用と浄水場整備により複数化

#### ④ 行政職員の意識改革と能力向上



# 政策の5本の柱 ②

## 👉 5本の柱

### ② 【地域振興】

課題：空き店舗の増加  
空き家の増加  
街の賑わい減少

#### ① 清水駅前への新サッカースタジアムの建設

サッカーだけでなくエンターテイメントなど幅広く活用できて  
防災拠点としても活用できるスタジアムの建設

#### ② 空き家や空き店舗を活用した起業の支援推進

20代・30代の若者を中心に静岡市内の空き店舗・空き家を  
活用し、起業の促進

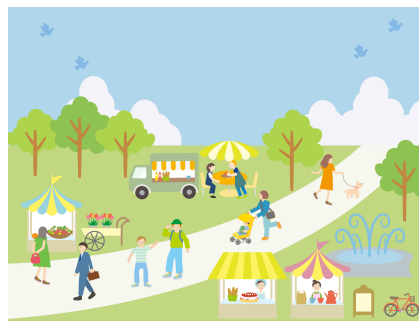
#### ③ 歴史と文化の街づくり

#### ④ 公園の効果的な活用

城北公園を含め、公園へのカフェ設置の再検討による  
賑わいの創出と持続する維持管理体制の構築

#### ⑤ 清水港・折戸湾の活性化

#### ⑥ 新たな食文化の振興



# 政策の5本の柱 ③

## 👉 5本の柱

### ③ 【産業・経済】

課題：後継者不足  
耕作放棄地の増加  
若者の流出  
企業誘致  
都市計画の見直し  
静岡市のPR不足

#### ① 農地の集約化と流動化による農地の活用と新規就農の推進

お茶などを活用した賑わいのエリア創出  
土地改良により生産効率の高い農地を増やす

#### ② 規制緩和

企業誘致や新たな産業を興すために、都市計画と土地利用の見直しを含めた規制緩和（ものづくり産業などの誘致）

#### ③ 林業・水産業の振興

オクシズの振興や県産木材の活用による振興  
陸上養殖や栽培漁業の後押し

#### ④ ふるさと納税の推進により静岡市のPRと税収増

静岡市独自の政策推進に活用

#### ⑤ 駿府城天守台の復元

家康公の天守台を静岡市のシンボルに（将来は天守閣も！）

#### ⑥ リニア新幹線の推進

「ひかり」の停車増と「のぞみ」の停車による経済・観光振興



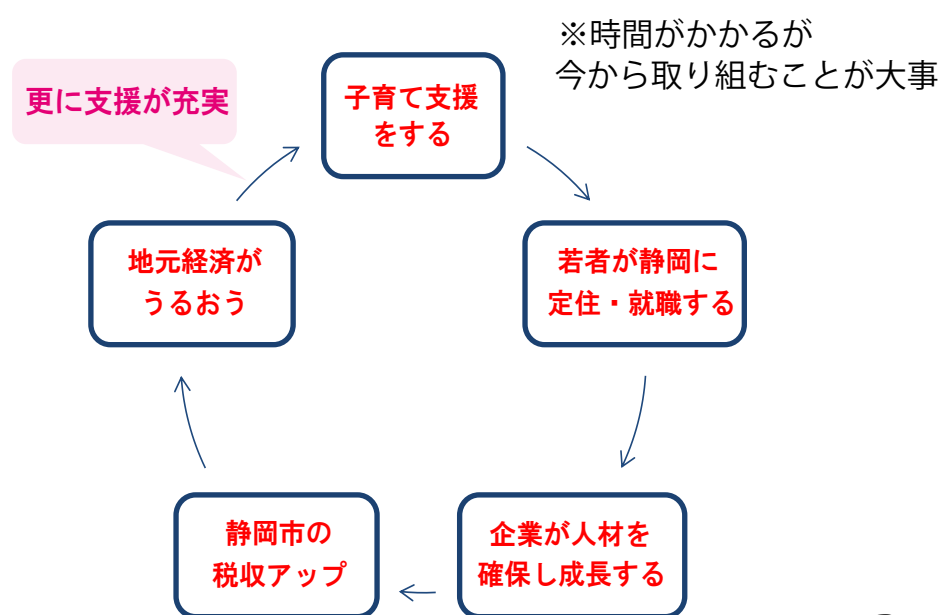
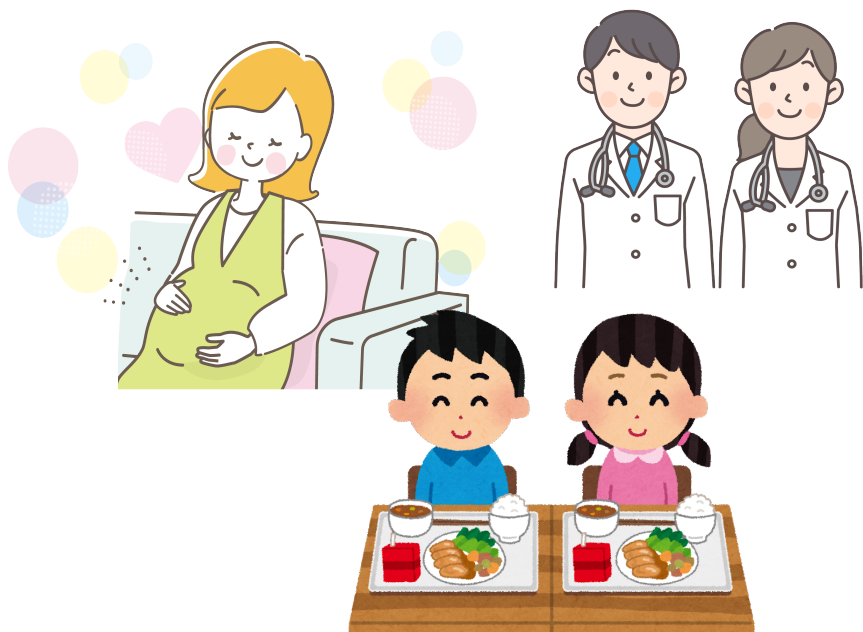
# 政策の5本の柱 ④

## 👉 5本の柱

### ④ 【福祉・医療】

課題：少子化・高齢化  
収入格差・貧困  
医療費等の負担  
医療体制の充実  
働き方改革

- ①妊娠から出産までの費用を無償化
- ②小学校・中学校の給食費を無償化
- ③子育て協力感謝制度
- ④市内の医療体制の充実
- ⑤予防医療の推進
- ⑥健康寿命の延伸
- ⑦障がい児・者への福祉を充実
- ⑧成人のひきこもり対策の推進



# 政策の5本の柱 ⑤

## 👉 5本の柱

### ⑤ 【教育・人材育成】

課題：学力の向上  
教員の能力向上  
不登校の増加  
デジタル化の推進  
プログラミング教育

#### ① 小学生放課後スタディ制度

小学校高学年の生徒の学力向上のため、放課後の小学校にて大学生や退職教員、塾の講師などが勉強をみる制度  
学力が向上し、転勤族等の家庭の静岡市への定住を促す

#### ② 不登校児童への支援

不登校の児童生徒に寄り添い、原因の明確化をし、各々の状況に合った支援をする

#### ③ デジタル化の推進とプログラミング教育、人材育成

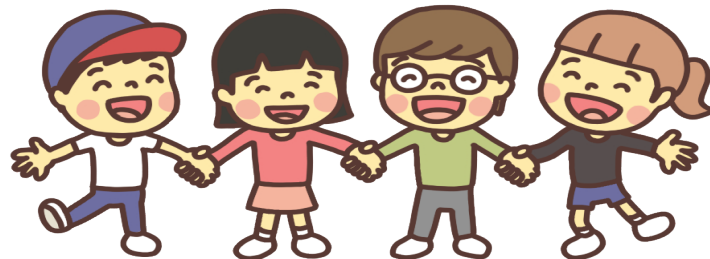
新たなIT人材を育てて、静岡の企業の人材確保に繋げる  
デジタル化の推進による教育環境の充実

#### ④ 障がい児教育

※

インクルーシブ教育の推進として教員が合理的配慮を行なえるように能力向上とともに障がい児と健常児が共に学ぶモデルケースをつくる  
特別な配慮が必要な子には、特別支援も併用出来るようにする  
将来は市内全域でのインクルーシブ教育を目指す

※インクルーシブ教育：障害の有無にかかわらずすべての子どもを受け入れる教育。



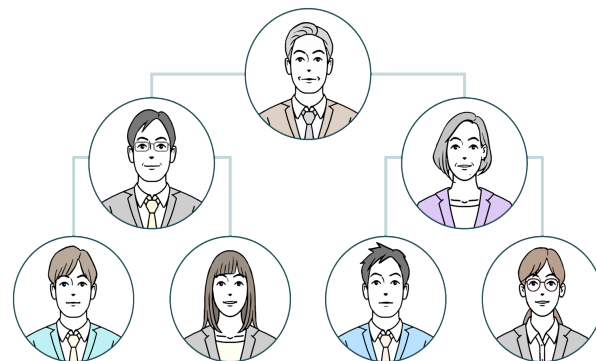
防災対策  
危機管理の  
再構築と推進

## 防災対策としての組織づくり

- ①緊急時に迅速な判断と対応が出来る組織体制の再構築
- ②様々な事を想定した訓練を怠らず、いざという時に備える

危機管理

覚悟・責任  
決断力  
情報収集  
事前予測



山田まことは  
市民の生命・財産を守る  
覚悟があり、決断をする！



## 上水道の 水源確保の 複数化

### 自然災害による断水を二度と起こさせない！

- ・ 静清工業用水の活用と浄水場整備による  
上水道の水源の複数化

#### 【現状】

昨年2022年9月23日の台風15号により、静岡市内で停電・断水・浸水といった大きな被害もたらされた。

中でも、興津川取水口に流木などが詰まって水を取り込めなくなったことによる約10日間の断水被害は単一水源が要因であったと言える。年々大規模になっている自然災害への対策として水源確保は重要な課題のひとつである。



- 静清工業用水の活用を進めて浄水場の整備により上水道の水源を複数化して災害時のリスク分散をはかる。

## 清水駅前新サッカースタジアムの整備

### 清水駅周辺の活性化策

- 清水エスパルスの新たな本拠地としてサッカーワールドカップが開催できる基準かつ、複合施設も視野に防災拠点として7mほどかさ上げして津波対策をする。

- 清水駅と河岸の市、江尻漁港周辺のエリアを連続させて市民はもちろん観光客も誘客し、食と観光の拠点とする。

イメージ図



清水エスパルスの本拠地として

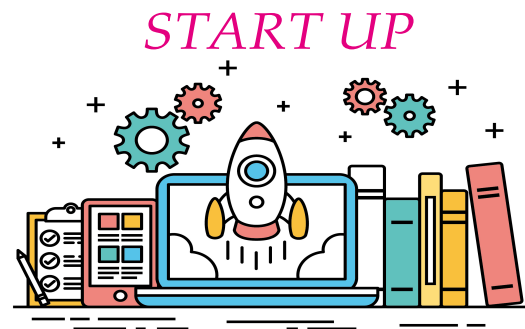


## 空き家や空き店舗を活用した起業の促進

若者のスタートアップ支援の大幅な充実

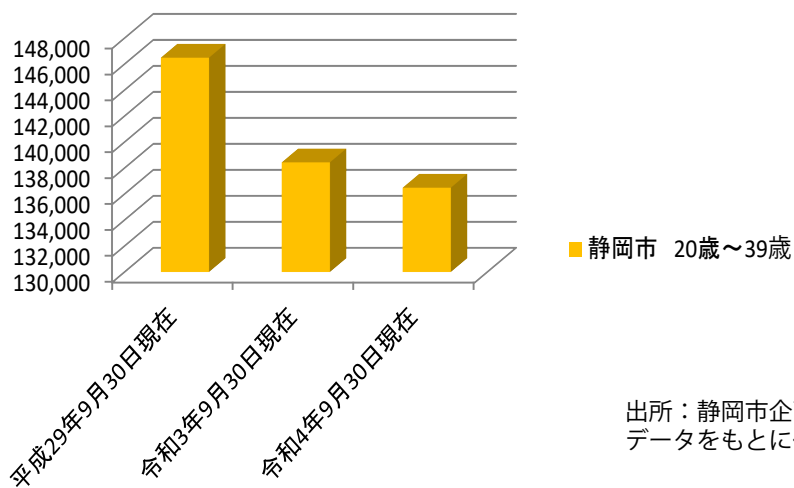
静岡市で起業をしたい若者を対象にスタートアップ支援をより充実する。

若者のスタートアップ支援の更なる充実により静岡に新たな芽をどんどん生み出し経済の活性化につなげる。



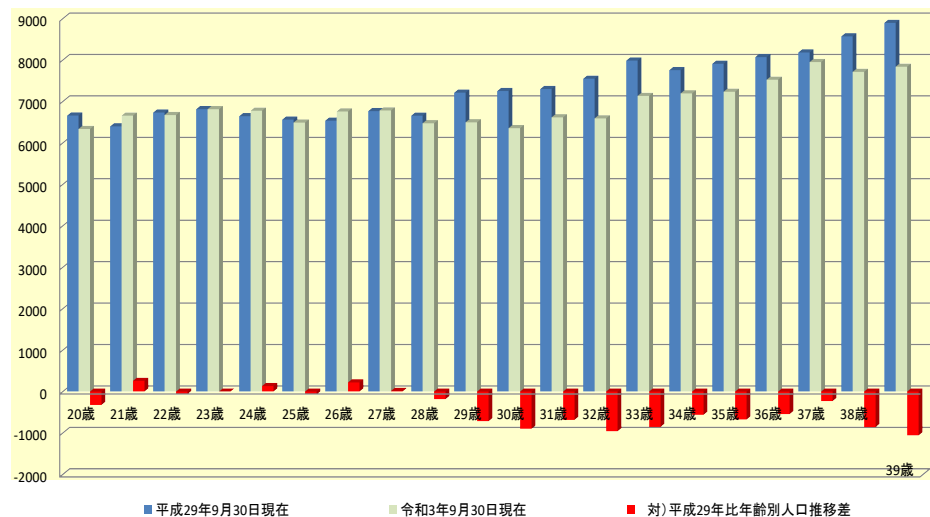
【現状】若者（特に20代、30代）の人口流出が顕著な静岡市（20歳から39歳の人口流出が5年間で約10,000人）。

### 静岡市 20歳～39歳人口推移



出所：静岡市企画課のデータをもとに作成

令和4年静岡市 平成29年比較  
年齢別人口総数推移グラフ（20歳～39歳）



### 観光振興・商業振興につなげる街づくり

歴史・文化の街づくり

- ①歴史的価値のある建物や文化財を中心としたエリアづくり
- ②プラモデルとアニメをコラボさせて、静岡市の魅力をPR
- ③静岡市で『静岡国際アニメ映画祭』の開催する。

・駿府城公園をはじめ、静岡浅間神社、清見寺、座漁荘、次郎長生家、日本平（久能山東照宮）など静岡市内には多くの歴史的価値のある建物や文化財がある。

これらの保存・修復などに力を入れ観光資源として活用をし、経済活性化につなげる。  
また、プロジェクションマッピングなども活用し、夜の観光地づくりも進める。

・静岡市のプラモデル産業とアニメのコラボをして静岡市の魅力をPRし、静岡市をプラモ・アニメの聖地として盛り上げ、産業振興につなげる。  
『静岡国際アニメ映画祭』を開催し、静岡市の観光振興を促進する。



## 公園の効果的な活用

### ①城北公園を含め、公園のカフェ設置の再検討

公園の効果的な活用  
で相乗効果を生む

地域の声を大切にしつつ、世代を問わず利用しやすい公園を目指し  
カフェなどからの収入を公園維持費に充て持続的な維持管理をする。

地域コミュニティの要として街の活気を支える

非常時に防災の拠点として活用する



# 折戸湾・清水港をマリンレジャーのメッカに！

折戸湾・清水港を活用した観光振興

- ① マリンレジャーの拠点「海のゲレンデ」
- ② プレジャーボートの係留エリア増加

・貯木場だった折戸湾の海中の杭と沈殿した汚泥を除去し、海水を浄化する。  
そこにマリンレジャーの拠点を作り、SUPやボートなどのマリンレジャーが出来る海のゲレンデをつくり、同時にゲレンデ内で事故が起きないように保安も行なう。



・プレジャーボートの繋留エリアを増やし県内外からの誘客。  
更に国内外のスーパーヨットの寄港促進をはかることで寄港者の消費支出を増やして地域経済も活性化させていく。



## 新たな食文化の振興

日本のサンセバスチャン  
(新たな食文化都市)

静岡、清水、由比、蒲原、市内の各地域それぞれの特色と静岡でとれる農水産物を活用した新たな食文化をつくりあげ「美食の街・シズオカ」、日本のサンセバスチャンを目指す。  
(食材となる農水産物は、静岡県が439種類で全国最多)

※サンセバスチャンとは、大西洋のコンチャ湾に抱かれたスペインの観光都市。海の保養地であり、バスク地方でも指折りの美食の街。

県内はもとより、国内外から新たな食文化を楽しむ来訪者を増やし、静岡市のみならず周辺の市町をふくめた駿河湾をまるごと楽しんでもらい地域経済の活性化につなげる。



## お茶をはじめとする農水産物の更なる振興

農地の集約化  
流動化による農地活用  
新規就農の推進

### 【現状】

若者の人口流出などによる  
農家の後継者不足に加えて  
耕作放棄地が増加している。



- ①お茶などを活用した賑わいエリアの創出
- ②土地改良による生産効率向上
- ③新規就農の促進



- ・本山茶をはじめとする、静岡茶の生産基盤強化と販売促進。  
市内でお茶の文化に親しむとともにお茶を楽しむエリアづくりの推進。
- ・土地改良を含めた農業基盤整備を推進して生産効率を高めるとともに、  
後継者育成や新規就農の推進をはかる。  
また、今よりもさらにITを活用した農業基盤整備の推進
- ・耕作放棄地を減らす為の対策を検討実施するとともに  
農地の流動化をはかる。



## 都市計画・土地利用の見直しと規制緩和

数十年前に決められた都市計画・土地利用の見直しと規制緩和をし  
土地活用の幅が広がることで企業の呼び込みや起業がしやすくなる



働く場所が増え、静岡市に住む人が増える



静岡市の経済が活性化し  
税金が増え、財政が豊かになる



更なる投資を行ない、より静岡市の経済を活性化させる



規制緩和  
(都市計画や土地利用  
の見直し)



林業・水産業の振興  
オクシズの振興  
県産木材の活用  
栽培漁業

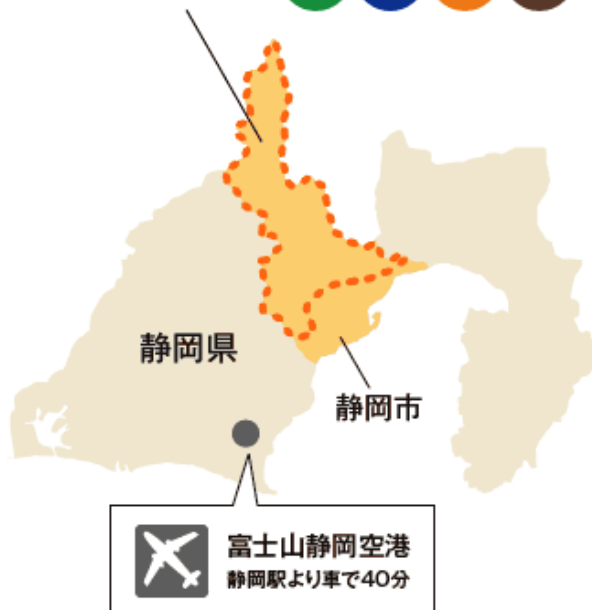
## 林業・水産業の振興

県産木材の住宅等への活用の更なる推進  
早生樹による、新たな木材活用の推進  
栽培漁業や陸上養殖の導入による水産業の振興

## オクシズの更なるブランド化

温泉と自然をメインに非日常が楽しめるエリアづくり（民間資金）  
新たな目玉となるものを生み出しながら、交流人口を増やす

奥静岡エリア = **オ****ク****シ****ズ**



# 政策 ③-④

## ふるさと納税を推進し、納税額20億円を目指す。

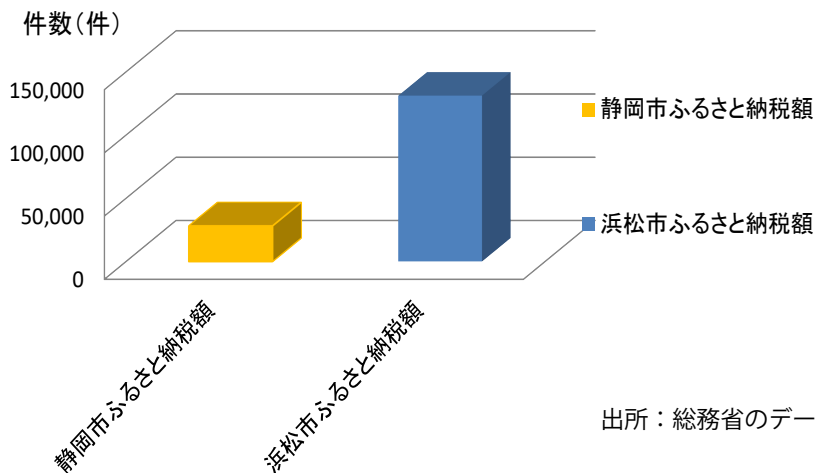
ふるさと納税の充実

市内の特色ある農水産物や地場産品をふるさと納税の返礼品として倍増させる。  
それによって、静岡市のPRと税収の増加を目指し、福祉や教育の充実、新たな施策推進などに使う。

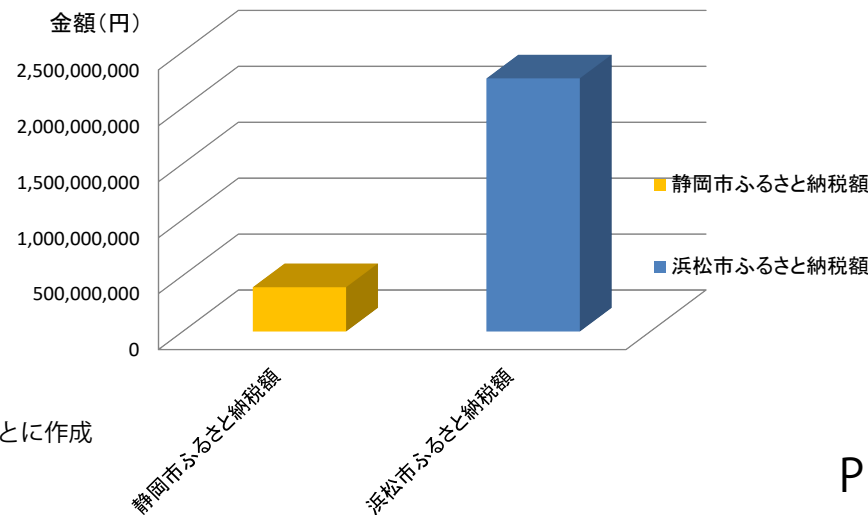


【現状】  
静岡市のふるさと納税の年間収入額はここ数年3～5億円。  
(流出額は12億円で、収支はマイナス7～9億円！)  
浜松市の直近の収入額は22億円と5～7倍の格差がある。

■ 令和3年 静岡市と浜松市比較ふるさと納税（件数）



■ 令和3年 静岡市と浜松市比較ふるさと納税（金額）



出所：総務省のデータをもとに作成

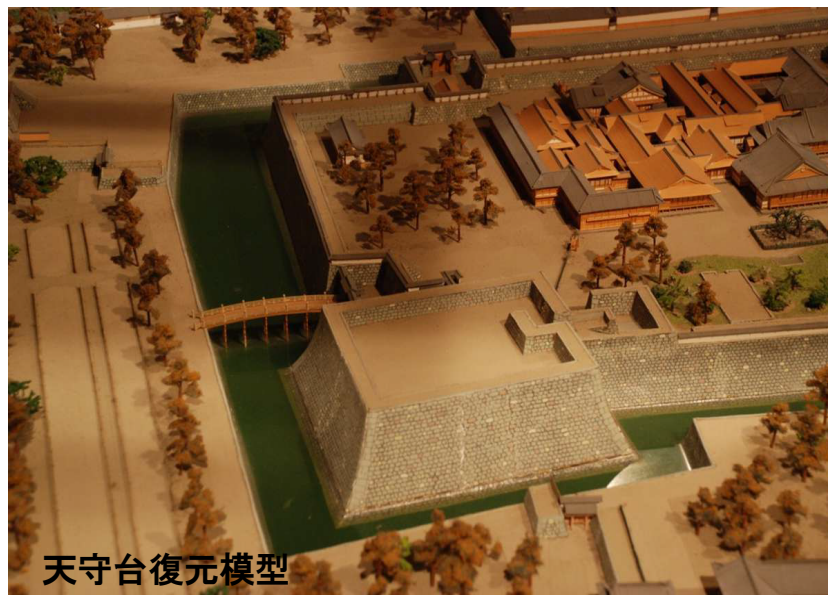
## 静岡市のシンボルとして、家康公の居城だった 駿府城天守台の復元

(堀の水面より約19mの高さの天守台)

### 駿府城天守台の復元

現在、発掘作業をしている駿府城天守台の石垣は、歴史的価値があり発掘した家康公の天守台を静岡市の新たなシンボルとして復元する。その復元には、国の補助金はもちろん、ふるさと納税などの手法も使い企業や団体、市民、静岡出身者など多くの方の賛同を得られるように幅広く募る。

静岡を訪れる人たちに  
天下をおさめた家康公の城を知ってもらい  
将来、天守閣建設に向けた議論もおこして  
交流人口の更なる拡大を目指す。



天守台復元模型



リニア新幹線について

## リニア新幹線の開通推進のため 水の確保をする導水路トンネル工事先行案

### 【現在】

- ・地質調査が不十分である。
- ・水量の減少についての明確なデータは無い。
- ・環境に与える影響は審議会で行っている。

5市2町との連携をして協議を進めていく

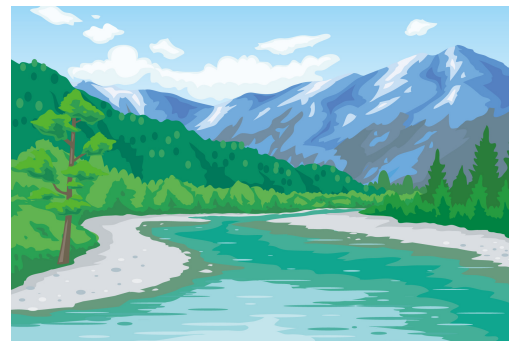
「水の確保」を第一と考え、トンネルの掘削による影響を減らす対策の一つとして、まず大井川までの導水路トンネルの工事を先行する方法も提案し、リニア新幹線の開通を推進したい。

### 【リニア開通によるメリット】

- ・日本のリニア技術確立をする。
- ・東海道新幹線の将来の経年劣化や大規模災害への対策。

### 【静岡市のメリット】

- ・現在の新幹線の静岡市への停車本数を増やす。  
「のぞみ」「ひかり」を静岡駅に停めることで  
静岡市の交流人口の増加、移住者の増加が見込める。



## 子育て支援制度

### 子育て支援の更なる充実

- ①妊娠から出産までの費用の無償化
- ②小学校、中学校の給食費の無償化

#### 【現状】

静岡市で行なっている子育て支援  
・各種助成制度、給付金制度、手当など  
・出産育児一時金  
・預り保育など  
・第二子の保育料を所得制限なく無償化(令和5年度より)  
制度としてはいくつもあるものの、静岡市を更に子育てがしやすい街にする必要がある。  
また、自宅で十分に食事ができず学校給食が唯一の食事で命綱という子どもは、コロナ前でも7人に1人\*が「困窮状態」と認定されています。



\*文部科学省「就学援助実施状況等調査結果」による  
困窮状態と認定された  
小中学生は2018年時点で  
137万人(全体の14.72%)。



- ・妊娠から出産までの費用の無償化をすることで、経済的負担を軽減をし、子どもを産み育てられるように促していく。
- ・あらゆる子どもたちが飢えることがなく、育ち、学び、遊び、暮らしていける『子どもたちのための静岡市』の実現を目指していく。

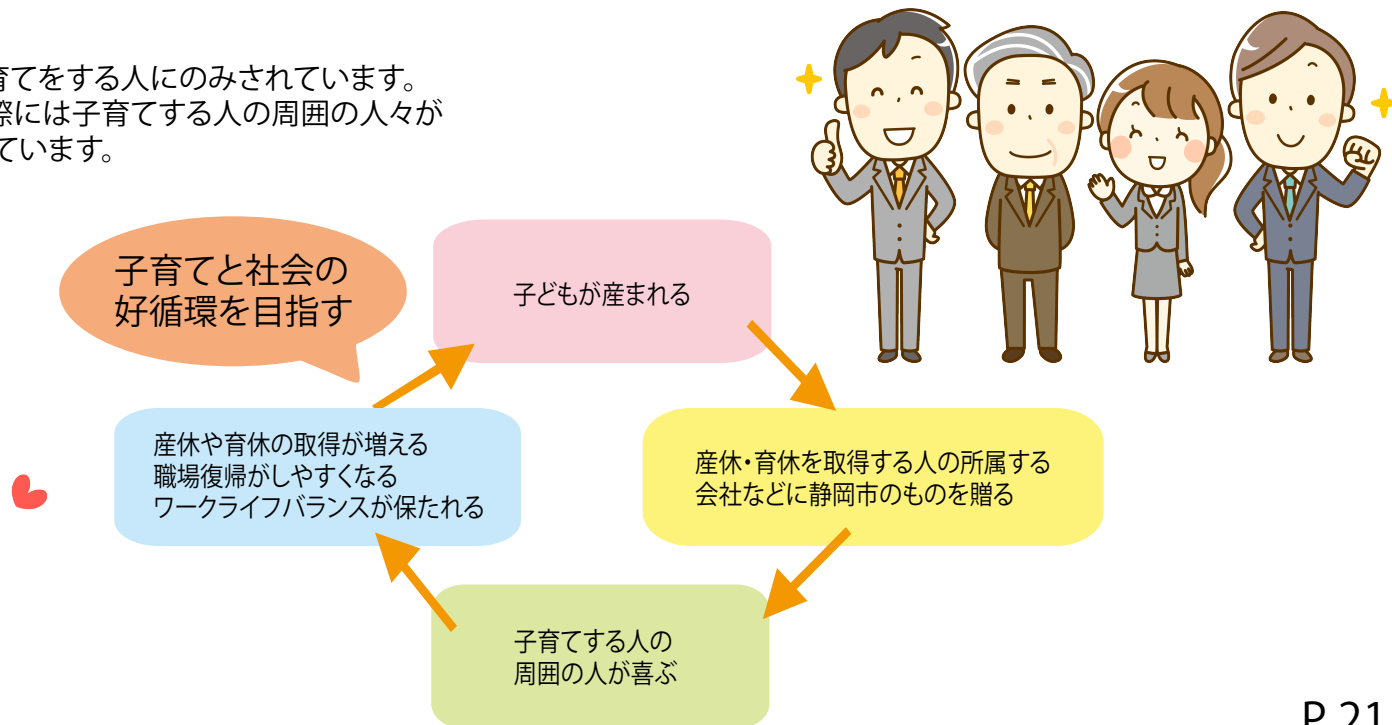
## 子育て協力 感謝制度

# 子育てする人の周りの方々にも感謝を

### ・ 子育て協力感謝制度の実施

産休・育休を取得した人の所属する企業などに静岡市のものを贈呈する制度。  
産休・育休の取得者のみならず、協力してくれている人々に感謝し、産休・育休の取得をよりしやすく、また取得後により職場復帰しやすくする。

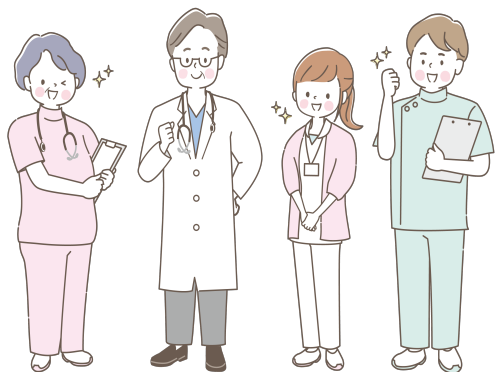
【現在】  
「子育て支援」というものは、主に子育てをする人にもみされています。  
しかし、産前・産後、育児において実際には子育てする人の周囲の人々が  
様々なかたちで子育てする人を支えています。



## 医療の充実

### 静岡市内の医療体制の充実をはかる

- ①基幹病院の救急医療体制を含めた市内の医療体制の充実  
各病院の救急医療体制の整備と充実をすることで、市民に対する医療の提供がさらに向上する
- ②医師の確保対策と、医療・看護・介護の連携  
基幹病院の医師の確保をするために、奨学金制度や大学の医学部との連携などを進めるとともに、市内出身の医師の定着をはかる  
医療・看護・介護の連携をはかり、市の政策推進がスムーズにいく体制を継続していく  
地域包括ケアシステムを2029年までに確実に立ち上げることはもちろん、前倒しで推進する
- ③健康寿命の延伸  
健康寿命の更なる延伸により、健康に暮らせる高齢者を増やして、明るく楽しく暮らせる静岡を目指す





障がい児・者と  
ひきこもり

## 障がい児・者の福祉と引きこもりへの支援の充実

### ①障がい児・者に対しての理解と支援の充実

多様な障害があることをみんなが理解し、共に社会を構成する仲間として助け合うまちを目指す

様々な障害に対して必要とされる支援の充実

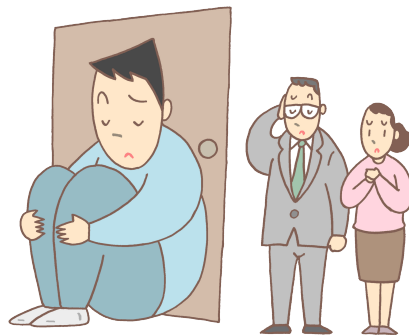
ジョブコーチの積極的な養成と活用により、障がい者も企業で活躍出来る環境づくり

障がい児を育てる保護者や家庭への支援を充実

### ③成人のひきこもり対策の推進

ひきこもりの方とその家族に対しての相談体制の充実

就労が前提ではなく、ひきこもりの方のための居場所づくりを推進し、支援者や専門家を交えたひきこもり対策を推進する



## 小学生放課後 スタディ制度

# 子どもたちの学力向上を目指す。

- ・ 小学校高学年の生徒の学力向上に『小学生放課後スタディ制度』の実施

### 【現状】

全国共通テストで静岡市の平均正答率は平均か平均以上。2000年代にされた学力低下論争は、近年下火になってきているものの、地域や各家庭の教育格差は依然として大きく、子どもたちの将来への不安が尽きない。



- 放課後の教室にて、大学生や退職教員、塾講師などが勉強をみる『小学生放課後スタディ制度』の実施。子ども達の基礎学力を向上させるとともに、転勤族等の家庭に静岡市への定住を促す。

## 不登校の学生に寄り添う社会体制づくり

不登校児童への支援

- ・ 不登校の原因の明確化をして  
各々の状況に合った支援を行なう

### 【現状】

静岡県の不登校児童の数は全国平均を上回っている。  
全国の平均値は小学校で0.83% 中学校で3.94%に対して、  
静岡市の割合は小学校で1.13% 中学校で5.48%である。  
(2021年2月17日静岡新聞より)



- 多岐にわたる不登校の原因を明確にすることで、問題解決の糸口をつかむ。
- 各家庭、個々に異なる原因や状況に対して柔軟に合わせた支援を行ない、子どもたちの未来の選択肢を拡げる。



## デジタル・DX日本一となる静岡市を目指す。

デジタル化の推進と  
プログラミング教育

- ①静岡市内全域に5G網の構築
- ②プログラミング教育の推進



- ・国が進める『デジタル田園都市国家構想』を静岡市で実現することで医療、福祉、防災、行政のサービスのみならず遊びや学びの情報共有を進め、心豊かな暮らしの実現をしていく。
- ・静岡市へ企業の誘致、市内の新たな産業の育成だけでなく農業や漁業の効率化、テレワーク等による移住・定住の促進中山間地での土地活用の促進をはかる。



- ・教育にプログラミング教育をより取り入れることでIT人材の育成を進め、静岡市の企業の人材確保に繋げる。

## 子どもたち全員が一緒に学べる学校を！

障がい児の教育

- ①静岡市の教員の能力向上と環境づくり
- ②インクルーシブ教育の推進

### 【現状】

障がい児の教育において世界各国ではインクルーシブ教育が行なわれている。

(インクルーシブ教育とは国籍、貧富の差、障害のあるなしに関わらず、すべての子どもたちが一緒に学べる教育のこと)

現在、日本では通常学級と特別支援教育が分離されていることに国連から勧告を受けた。



- 教育の機会をすべての子どもたちに公平に提供するためにも市の教員が子どもたちの個々の障害に応じた合理的配慮を行なえるように能力向上をはかる。  
また、教育現場のユニバーサルデザインの環境づくりも行なう。
- インクルーシブ教育の推進により、多様性を認め合い共生する社会の実現。次世代の教育の在り方として、静岡市が日本のインクルーシブ教育モデルを目指す。